慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	企業の成長要因の分析
Sub Title	
Author	岡田和信(Okada, Kazunobu) 村井俊雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1982
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001982-0188

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0188

学生氏名　岡田和信　（株式会社　住友銀行）
所属ゼミナール　鈴木貞彦研
主査　村井俊雄
副査　関谷章
鈴木貞彦

企業の成長要因の分析

昭和４８年のオイルショックを契機に我国経済は安定成長期に移行し企業を取巻く環境は厳しいものがある。このため企業に対し融資業務を行なう金融機関にとっても成長力の高い企業を選別し取引の強化を図る必要性は極めて高いものがある。然乍ら、企業の成長性に関する限り実務面での実証研究は些んど無いのが現状である。又、通産省の調査を筆頭に学術の分野ではこの種の研究は比較的多いがその多くはアンケート調査の結果を分析したもので、企業の外部公表データで企業の成長性を判断することが要求される実務面ではそのまま利用することが出来ない。本研究では既存研究により明らかになっている企業の成長要因を参考として、従来実務家の間で使用されて来た変数も加えて実証分析を行なった。本研究では、売上高の高成長企業及び低成長企業、経常利益の高成長企業及び低成長企業を抽出し以下に述べる二段階で検討を加えた。先ず、第一段階で、選択された２３変数の各々が単独で企業の成長性にどの様な影響を与えるかを分析した。具体的には、被説明変数との相関係数、高成長・低成長グループの平均値の差の検定を行なった。第二段階で、逐次重回帰法により、売上高、経常利益２本の重回帰式を作成して各変数の相対的な影響度について検討を加えた。本研究においては、市場シエア、企業の海外進出等の重要と考えられる説明変数の欠如、データの統計的精緻化の不足、重回帰式の改善の余地（含正準相関分析の利用）等及ばなかった問題点も多い、上記諸点が今後に残された課題と言えよう。